

令和6年度

# 高等学校入学試験問題

## 国語

### 受験上の注意

- ◎ 時間……………45分
- ◎ 解答はすべて、別紙解答欄に記入すること。
- ◎ 字数制限のある場合、句読点、カギなどの記号も字数に入れるものとする。

第一問題 次の文章は村崎なぎこ『ナカスイ！ 海なし県の水産高校』の一節である。これを読んで、後の問い合わせに答えなさい。

注1 那珂川水産高等学校（ナカスイ）一年生の鈴木さくら、大和かさね、芳村小百合は、三人一組で出場する地元食材を使った創作料理のコンテストである『『当地おいしい！甲子園』』にエントリーしたが、予選で敗退する。その後、PR動画の投票数で一位になった高校が敗者復活として決勝に参加できるということになり、三人はナカスイの生徒たちの協力を得てPR動画を制作した。結果を待つ間、人気ユーチューバーのマサルが、ナカスイの三年生が開発したナマズの内臓せんべいと一緒に、そのPR動画を紹介していた。

先生がホイッスルをくわえたとき、教頭先生が血相を変えて実習室に飛び込んできた。

「教頭先生、どうなさったんです？」

神宮寺先生が、息をゼイゼイと切らす教頭先生の背中をさすると、何度も深呼吸してから叫ぶ。

「お、おめでとう！『『当地おいしい！甲子園』』の事務局から、ただいま電話がありました。PR動画の投票数、トップだったそ

うよ」

「じゃあ、ナカスイは決勝に行けるんですね！」

二人は歓声を上げて抱き合った。

ポカンとする私をよそに、クラスみんなの歓声が実習室に響き渡る。

「ほら、やっぱりマサルパワーですよ！」

私のはす向かいに座る島崎君が、目をこれでもかと輝かせていた。

「やつたあ！ 池袋にまた行ける！ 今度こそアニメショップに行く！」

かさねちゃんが、椅子から立ち上がりつてぴょんぴょん飛び回って叫んでいる。

「鈴木さん、良かったね！ 今、公式サイトにも出てるよ。得票数三千三百二十四票。二位が

注2 聖ローザ女子学院で千百二票

進藤君のスマホを見せてもらうと、確かにそのとおりだ。ということは――。

「あのユーチューバーに紹介されなかつたら、ナカスイは落ちてたつてことだよね」

「それはわからないけど、マサルに感謝だね」

「おい、今度こそ応援に行くかんな。<sup>注3</sup>あかぴょんが来るんだろ！」

血走った目で渡辺君がそう言うと、かさねちゃんは「いいよ来なくて」とあっさり却下した。

「あ」

ふと気になった。小百合ちゃん！

私の左隣にいる彼女を見ると、椅子に座つたまま無表情で固まっていた。

その夜、私は<sup>注4</sup>部屋の畳にゴロゴロ転がっていた。

せつかく決勝に進めることになつたのに、なんでこんなに——心中に何の感情も湧いてこないんだろう。

ううん、理由はある。聖ローザ女子学院にすべてにおいて完敗だったのは自分がよくわかつているからだ。決勝に進めなかつた時点で私の甲子園は終わつてしまつていた。心の燃料が尽きている。<sup>①</sup>水がなくなつた養殖池に鮎を放したって、泳げるわけがない。

いきなり電子音が鳴つた。座卓の上に放り投げていたスマホの着信音だ。起き上がるのが面倒くさいので放置しておこうかと思つたけど、なかなか鳴りやまない。<sup>あきら</sup>諦めて体を起こし発信元を見ると、知らない携帯番号だ。

「もしもししい？」

<sup>②</sup>これ以上なく感じの悪い口調で応答する。

「あの……私、聖ローザ女子学院の西園寺綾子と申しますが、鈴木さくらさんの携帯でよろしいでしちゃうか」

慌てて正座をした。そういうえば、予選の後の交流会で、電話番号を交換したような気がする。

「はい！ そうです。すみません！ 間違ひ電話かと思つて」

クスクス上品に笑いながら、彼女は続けた。

「応援投票の結果が発表になりましたね。おめでとうございます。あの動画、とても地元愛にあふれて良かったですから、一位は当然だと思います」

ああ——なんてできた人なんだろう。選ばれるべきは彼女だ。

「ありがとうございます。あの、実は私たち……」

言おうか言わないべきか。一人で決めていいのか。<sup>③</sup>言っちゃえ。

「辞退します。どうぞ決勝に進んでください」

「え！ どうして」

彼女の口調からは「それはラッキー！」的なものは微塵も感じられない。

「だって私たちの料理は……審査員の反応からして、どう考えたってそちらには完敗でした。私にもその自覚があります」

そう告白しながら A の荷が下りていく感覚に包まれた。ああ、ホッとする。心の奥底にいる本心の自分が告げている。「ほらね、辞退で正解なんだよ」と。

「——なのに、動画だけが理由で選ばれても、なんだかなという気持ちで」

「<sup>④</sup>それは失礼ですよ」

「え？ 誰にですか」

「応援してくださった方々にも、私たちにも。あなたの独断で譲られたって、嬉しくもなんともありません」

まさかそんな返事が来ると思わなかつた。思わず、本音が口に出てしまう。

「だって、投票もそちらがトップのはずだつたじゃないですか。人気ユーチューバーが取り上げてくれたから、票が入ったようなもんです。そんなの実力じゃないですし」

「マサルさんですね。私も『マサルのお取り寄せ雑食チャンネル』が好きで、よく拝見しているのですが——」

「あら意外」

「応援投票しよう、という趣旨の発言はしていらっしゃいませんでしたよ。ナカスイの食べ物はおいしそうなものが多ーいね、甲子園のPR動画も面白いから観てみて、というニュアンスでした。その上で投票したのは視聴者の判断です。実際、私もあなた方の動画はとても良いと思います」

⑤客観的な視点だと、そななんだろうか。西園寺さんは⑥淡々と続ける。

「今回、落ちたのは私たちだけではありません。みんな、決勝に行きたかったはずです。でも、あなた方が選ばれた。その機会は活かすべきです。そして⑦決勝の料理で私たちに嫉妬させてください。また這い上がるうと思えるように」

私はわかりましたとも無理ですとも言わなかつた。ただ、電話ありがとうございましたとだけ言つて切つた。  
出る？ 決勝に？ もうそんな気持ちになんて――。

襖がノックされた。誰だらう、私の部屋に来るなんて。玄関の戸が開く音は聞こえなかつたから、かさねちゃんではない。  
「あ、あの……話してもいいかな」

小百合ちゃん！ まさか、彼女から私の部屋に来るなんて。私は大慌てで座卓の周りを片付け、人の目に触れてもOKな状態にした。

「どうぞ、入って！」

ジャージ姿の彼女は座卓の前に座るやいなや、口を開いた。

「決勝、辞退するの？」

そうか、彼女も気になつてたはず。

「うん。小百合ちゃんのためにもね。あのアイドルが来るからイヤでしょ」

「⑧人のせいにしないで！」

珍しくキツい口調だ。

「き、聞こえたよ、今の電話……。自分が、もう興味なくなっちゃつたんでしょ？」

「だって、私たちが行くべきじゃないよ。小百合ちゃんだけって思うでしょ？」 聖ローザ女子学院の方がすべてにおいて優れていたっ

て」

「思わないよ」

「え」

意外な、意外な言葉だった。

「鈴木さん、最初は魚にも那珂川にも興味なさそうだったのに、いろいろ体当たりして勉強して調べて、私や大和さんを一生懸命説得して、頑張って料理考えて練習して大会に出たでしょ。プレゼンだって、言葉が出てこなくてハラハラしたけど、<sup>注5</sup>まさかウナギの解剖実習——それも『鮓』<sup>えら</sup>の漢字からリカバーするとは思わなかつた。ス、スゴイと思ったよ。応募を決めてから今までの鈴木さんの姿、全然ほかの学校に負けでないと思う」

言葉が出ない。小百合ちゃんは、私を認めてくれていたのか。

「ナマズの内臓せんべいの<sup>注6</sup>食レポがSNSで話題になつて、ユーチューバーの目に留まつたのも、神様がチャンスをくれたんだと思う。か、神様が手招きしてるなら、その方向に進んでいった方がいいんだよ」

「神様が手招き?」

「そしたら、きっと何か結果が出るよ。学校に行けなくなつて魚の図鑑をもらつたとき……私、見えたもの。神様の手招きが」

そう訴える彼女は——天使に見えた。<sup>注7</sup>無垢<sup>むく</sup>で純粹<sup>じゅすい</sup>で。それゆえに傷ついてきて。

だけど、手招きなんて見えたかな私。その前に大問題が一つ。

「小松原茜<sup>こまつばらあかね</sup>が来るのは……小百合ちゃん、大丈夫なの?」

「もしも、もしも優勝したら、ナカスイに興味を持つて進学してみようと思う子が一人でも出てくるかも知れないでしょ。二人かも知れないし、もっともつといふかも。それで学校が残るなら、あの子がいたとしても私は決勝に出る。だつて私、ナカスイ大好きだもん。ずっとずっと残つてほしいから——鈴木さんや大和さんと一緒に大事……」

そこまで言うと、小百合ちゃんの目からポロポロ涙がこぼれだした。

「そ、そうだよ。大事! 私とかさねちゃんがいたら、小松原茜<sup>こまつばらあかね</sup>なんて目じゃないよ!」

「あたしがなんだって？」

「ふきげん そうな声と共に襖が開いて、パジャマ姿のかさねちゃんが入ってきた。見事なステップで畳の上の荷物を避けながら歩いてきて、私の隣に座る。

「ちょっとあんた、辞退なんかしないでよね」

「なんで知ってるの！」

「今日のあんたの態度見りやわかる。どれだけ一緒に暮らしてると思ってんの」

「いや、まだ半年にもならないでしょ」

「そもそもその目的がまだ達成されていない。あたしはまだ、池袋のアニメショップに行けていないのよ。今度こそ行く、絶対行く！」勢いよく立ち上がり、小百合ちゃんを指さした。

「それでもう一つの目的も意地でも達成する。ぶっちぎりで優勝して、優勝インタビューで、小松原茜の過去の悪行を生配信で全世界にぶちましてやるわ」

「実はさっき、西園寺ナントカからあたしのスマホに電話があつてさ。あんたが辞退するとかほざいてるから、急いで説得してくれって」  
「なんだ。どうりでタイミングいいと思った」  
「辞退なんか許さないよ。せつかくの池袋に行ける機会を」  
「出るよ、何言ってんの。優勝狙うもん」

勢いあまってそう答えると、向かいに座る小百合ちゃんが涙を拭いながら、かすかに笑みを浮かべた。

注1 那珂川水産高等学校…大幅な定員割れのため統廃合が検討されている。

注2 聖ローラ女子学院…『ご当地おいしい！甲子園』予選の対戦相手の一校。

注3 あかびよん…アイドルの小松原茜。芳村小百合とは中学校時代の同級生であり、小百合に意地悪なことを言っていた。

注4 部屋…さくら、小百合はかさねの家である小料理屋に下宿している。さくらと小百合の部屋は隣り合っている。

注5 まさかウナギの解剖実習——それも『鰐』<sup>えち</sup>の漢字からリカバーするとは思わなかつた…甲子園予選のプレゼンテーションで、さくらは頭が真っ白になり暗記していた文章を忘れてしまつた。そのとき、なぜか『鰐』という言葉が思い浮かび、その連想から文章を即興で作り、プレゼンテーションを行うことができたが、小百合はそのようにできるとは思わなかつたということ。リカバーとは、取り戻すこと、回復・復旧することという意味。

注6 食レポ…食レポート。テレビなどでレポーターが料理をその場で食べ、味などについて感想を述べること。

注7 無垢…けがれなく純真なこと。また、そのまま。

## 問一

傍線部①「水がなくなつた養殖池に鮎を放したって、泳げるわけがない」とあるが、これはどういうことか。最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、決勝に行けると思わず、すでに料理のアイディアを出し尽くしてしまつてゐるため、これから決勝で出す料理を考えようとしてもアイディアは出てこないということ。

イ、もともと決勝に出ることが目的ではなく、PR動画を制作し、みんなと協力してやりきつたと思えれば十分だったため、今さらやる気が出てこないということ。

ウ、予選で敗退し、もう甲子園は終わつたのだと心の中で一区切りついてしまつてゐるため、今さら決勝進出のチャンスが与えられても気持ちがついていかないということ。

エ、予選で対戦相手に完敗し、自分たちの力不足を感じて何もやる気が起きないため、来年の甲子園に出場する準備をしようとしてもアイディアを出す気にならないということ。

問二 傍線部②「これ以上なく感じの悪い口調で応答する」とあるが、これはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア、物事が思いがけない方向に進みどうしてよいか分からぬときに、お祝いの電話を受けても困るため。  
イ、決勝に出場させようとする周りからの圧力への怒りを感じていて、電話の相手に八つ当たりしたため。  
ウ、決勝に出場することを受け止められずにいるときにかかってきた電話に、わざわざを感じたため。  
エ、電話が自分を悩ませる甲子園の関係者からのものかもしれない、相手に文句を言ってやろうと思ったため。

問三 傍線部③「言っちゃえ」とさくらが考えたのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア、小百合やかさねはもともと決勝に出ることに乗り気ではなく、辞退することに反対しないと考えたから。  
イ、小百合やかさねは決勝に出ることをとても楽しみにしており、反対される前に辞退しようと考えたから。  
ウ、自分は決勝に出たかったが、負けた綾子の気持ちを考えると、少しでも早く辞退すべきだと考えたから。  
エ、辞退することは正しいと思いながらも迷っていたが、今ここで言うことで迷いを払いたいと考えたから。

問四 空欄 A に入る適当な語を漢字一字で答えなさい。

問五 傍線部④「それは失礼ですよ」とあるが、何が失礼だというのか。最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア、どちらの学校も努力していたのに、聖ローラ女子学院への同情心から決勝進出を譲られること。  
イ、綾子の尊敬するマサルが選んでくれたのに、マサルの厚意を無にする形で決勝進出を譲られること。  
ウ、同じチームである小百合やかさねに反対されていたのに、さくらの独断で決勝進出を譲られること。  
エ、適切な手順を踏んで選ばれたのに、関わった人たちの気持ちをかえりみずに決勝進出を譲られること。

問六 傍線部⑤「客観的」の対義語を漢字で答えなさい。

問七 傍線部⑥「淡々と」の意味として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア、冷たく責めるように イ、冷静に落ち着いて ウ、ゆっくりほがらかに エ、リズミカルで楽しそうに  
エから選び、記号で答えなさい。

ア、決勝の那珂川水産高等学校の料理のできを見て、聖ローラ女子学院の生徒に自分たちにもこの程度の料理なら作れたと悔しく思わせること。

イ、決勝で作られた那珂川水産高等学校の料理の素晴らしさを見て、聖ローラ女子学院の生徒に来年は自分たちが出場してそのような料理を作りたいと思わせること。

ウ、那珂川水産高等学校の生徒が決勝でそれぞれの高校の美味しそうな料理を試食しているところを見て、聖ローラ女子学院の生徒にうらやましいと思わせること。

エ、那珂川水産高等学校の生徒が聖ローラ女子学院からもらったレシピで料理を作っているところを見て、本来そこにいるのは自分たちだったとつらく思わせること。

問九 傍線部⑧「人のせいにしないで！」とあるが、小百合は決勝に出場することについて本来どのような理由からどうしたいと考えていたのか。八十字以内で説明しなさい。

問十 次の『会話文』は、さくらの気持ちの移り変わりについて生徒が話し合ったものである。これを読んで、後の問い合わせに答えるさい。

### 『会話文』

生徒a 「さくらは、初め、甲子園の決勝に出場することについて悩んでいたみたいだけれど、最後には『優勝狙うもん』と言っているよね。なんでそんなに気持ちが変わったのかな。」

生徒b 「そうだね。気持ちの変化が見られるよね。その気持ちをえてくれたのは西園寺綾子と小百合ちゃんなんじゃないかな。たとえば、綾子と話しているときに、さくらは、出場を得られたのは『X』という本音を思わずもらしてしまったけれど、綾子はそう考える必要はないと言つてくれたよね。」

生徒c 「うん。そこで、決勝に出るかどうか心が揺れ始めているよね。それは『Y』という表現から読みとれるよね。」「たしかに、はつきり決めかねている感じだよね。」

生徒b 「それから、小百合に『人のせいにしないで!』と言われたときははっとしただろうね。さくらは小百合のことを気遣つていたかもしだいけど、逆に小百合の言葉に考えさせられる場面だったよね。」

生徒c 「さくらの気持ちが大きく動いたのはここかもしないね。」

(1) 空欄Xに入る表現を本文中から六字で抜き出して答えなさい。

(2) 空欄Yに入る表現を本文から一文で抜き出し、初めと終わりの五字で答えなさい。

第二問題 次の【文章I】と【文章II】を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

### 【文章I】

①相手を信頼して行動することで自分の「身」がまったく危険にさらされることがないのなら、それは相手を信頼していることになります。そのような場合には、相手を信頼する必要そのものがないからです。

たとえば、友人が急にお金が必要になったので一〇〇万円の借金を申し込んできたとします。その時に、借金の<sup>注1</sup>担保として時価一〇〇万円は絶対に下らない有名な画家の絵を差し出しました。このとき、一〇〇万円をこの友人のために用立てるかどうかを決めるにあたって、この友人が信頼できる人間かどうかを考える必要はあるでしょうか。もちろんありません。借金を期日までに返済してくれなくても、担保の絵を画商に売却すれば損害を被らないからです。つまり、この場合には一〇〇万円を用立てたところで「身」を危険にさらすことにならず、したがって一〇〇万円を用立てるかどうかの決定にあたっては、相手が信頼できる人間であるかどうかを考える必要がないからです。

これに対して、友人が何も担保を差し出すことなく一〇〇万円の借金を申し込んできたとしたら、この友人に一〇〇万円を用立ててあるかどうかの決定にあたって、②その友人がどれほど信頼できる人間なのかが重要な問題になります。友人が信頼できない人間で借金を平気で踏み倒すような人間であれば、あなたは大切な貯金をなくしてしまいます。信頼が問題となるのは、このような、相手の行動によって危険にさらされる「身」が存在している場合なのです。

この状態、つまり相手の行動によっては自分の「身」が危険にさらされてしまう状態のことを、ここで社会的不確実性が存在している状態と呼ぶことにします。もちろんこの意味での社会的不確実性については、存在しているかいなかという二分法的に考えるのではなく、どの程度大きな不確実性が存在しているかといったかたちで考えるべきです。危険にさらされる「自己利益」が大きければ大きいほど、また危険の程度が大きければ大きいほど、社会的不確実性が大きいと言えます。

このような大きな社会的不確実性の存在する状況、すなわち相手の行動のいかんによっては自分がひどい目にあつてしまふ状況で、相手がひどいことをしないだろうと期待することが、その相手を信頼することだと言えます。

それでは、そのような社会的不確実性に直面して、前述の意味での信頼を相手に対してもつのは、つまり相手が自分に対してもつていい行動はとらないだろうと期待するのは、どのような場合でしょうか。

ひとつは、相手がそんなに「悪い」人間には見えない場合です。相手が強力な「良心」をもつ人間だと確信できた場合には、相手の善意を信頼することができます。また相手の人格の高潔さについて自信がない場合でも、相手が自分に対して好意をもつていることがはっきりとわかっているような場合には、やはりその相手が自分に対して意図的に損害を与えるような行動をとらないだろうと期待できるでしょう。つまり、社会的不確実性の大きな状況で相手が信頼に値する行動をとると期待できるかどうかは、少なくとも多くの部分を、相手の人格の評価——相手が自分の利益を犠牲にしても信頼に足る行動をとる人格の持ち主だと考えられるかどうか——や、あるいは相手が自分に対してもつている態度や感情の評価に依存しています。もう少し一般的に言えば、相手の（自分に対する）行動傾向についての知識にもとづいていると言つてもよいでしょう。

しかし、社会的不確実状況で相手が自分を<sup>注2</sup>搾取するような行動をとらないだろうという期待は、必ずしも相手の行動傾向の評価だけにもとづいているわけではありません。というのは、いくら相手が卑劣な人間であることがわかつっていても、そして相手が自分に対して温かい感情をもっていないことがわかつっていても、その相手が決して自分を搾取するような行動に出ないだろうと確信できる場合があるからです。それは、その相手にとって搾取的に行動することが、相手自身の損失につながる場合です。

この点を理解するために、ここで<sup>③</sup>「針千本マシン」という架空の機械を考えてみます。この「針千本マシン」を手術によって喉に埋め込まれた人間が嘘をついたり約束を破ると、自動的に千本の針がその人の喉に送り込まれます。さて、ある人間の喉にこの「針千本マシン」が埋めこまれているとします。そのことを知っている者は誰でも、その人間が絶対に、少なくとも意図的には嘘をついたり約束を破らないと確信できるでしょう。たとえその人間がこれまでに何度も約束を破って、そのため罰として「針千本マシン」を埋め込まれた人間であったとしても、千本の針を喉に送り込まれる目にあうよりは、約束を守ったほうがましだからです。この場合には、相手が嘘をつく意図をもっていないという期待は、相手の人格の高潔さや、相手が自分に対してもつている感情ではなく、相手の行動が相手自身にもたらす利益や損失についての判断にもとづいています。

～ 中略 ～

筆者はこれまで、信頼のこの二つの側面を区別するため、信頼と区別される別の概念として、「安心」の概念を用いることを提案してきました。「安心」とは、相手が自分を搾取する意図をもっていないという期待の中で、相手の自己利益の評価に根差した部分です。たとえば「針千本マシン」を装着した相手が約束を破らないだろうという期待は、この定義によれば信頼ではなく安心にあたります。これに対して「信頼」は、相手が自分を搾取しようとする意図をもっていないという期待の中で、相手の人格や自分に対して抱いている感情についての評価にもとづく部分に限られます。

(山岸俊男『安心社会から信頼社会へ』より)

注1 担保：将来生じるかもしれない不利益を補うことを保証するもの。

注2 搾取：他人を使役して不当な利益を得ること。

## 【文章Ⅱ】

いくら安全対策がなされているとはいえ、周囲からすれば不安も残る。「ふつうの生活」にはさまざまなりスクが伴うからだ。実際、目を離したすきに入居者さんが外出してしまい、長時間行方不明になってしまふケースもあったそうだ。「鍵をかけないのは危険だ」という批判も当然寄せられる。

それでも、和田は認知症のお年寄りを信じようとしてきた。なぜなら、介護の現場では、あまりにも信頼ではなく安心が優先されているからだ。

④( )のつまり、本人が椅子から立とうとすると「危ないから座っていてください」と行動を抑止し、本人がどんなに頑張っても立ち上がることができないようなソファーを置いてそこに座らせていたり、施錠して出て行けないようにしたり、物

を隠して触れないようにする、薬物を使うなどの手を打つことになるのです。

すると家族等が一番望む「安全な生活」は担保できたとしても、自分の意思を行動に移すという人としてのステキな姿は消失せ、そのことからくる混乱は増し、動かないことによる心身の活動性低下や能力の衰退が合わさって起ころうなど、「生き生きとした姿」を失うことにつながりかねないのです。<sup>注3</sup>【\*3】

安心が前提にする、社会的不確実性がゼロの状況とは、先にも指摘したとおり、確実にコントロールできているということを意味する。相手の行動が予測可能なものになっていて、介助する側からするリスクがない。「相手の行動によってこちらがひどい目にあう」ということがないので、自分と相手の関係も固定されることになる。それは、制御し、支配する関係だ。

けれども和田は、どこまでもお年寄りを制御したり支配したりしないようとする。なぜなら、生きることはそもそもリスクを伴うことだからだ。もちろんさまざまな工夫によって、リスクを最小化することは重要だし、和田もその点に関しては細心の注意を払っている。けれども、相手が意思を行動に移すとき、必ず想定外のことは起こる。だからこそ和田は、お年寄りの力を信じ、「想定外」が許されるような生活の場を整えようとするのだ。

不確実性を残すということは、失敗する可能性を残すということ、つまりは挑戦する可能性を残すということでもある。<sup>注4</sup>若年性アルツハイマー病の丹野智文<sup>たんの ともぶみ</sup>は、今の日本の支援は失敗を許さない体制になつていてと言つ。「『失敗させないようにどうするか』なんですね。失敗して何がダメなんだろうっておれ思つててね。ふつうの人でも失敗するのに、何で障害者は失敗しちゃダメなのかなって」【\*4】。

#### △ 中略 △

しかし、ここまで論じてきたのは、あくまで「ケアする人が、ケアされる人の可能性を信じられるかどうか」という意味での信頼であった。つまり、強くより自由度が高い者の、弱くより自由度が低い者に対する信頼である。しかし当然ながらその逆方向の信頼もある。つまり、ケアされる人の、ケアする人に対する信頼だ。

(5) この「される側」から「する側」への信頼は、「する側」から「される側」への信頼とは、性質が異なつてゐる。なぜならケ

アされる側には、「ケアしてもらわないと生きていけない」という選択の余地のなさ、あるいは選択肢の少なさがあるからだ。「信じない」というオプションを選びにくい状況で、相手を信頼しなければならない場合がある。これは「する側」から「される側」への信頼にはない要因である。

たとえば、<sup>注5</sup>全盲の西島玲那は、筆者によるインタビューで、街で会った人に介助してもらうときには、ちょっとした「覚悟」が伴うと話している。

声をかけてくれる人に委ねるときには、だまされる覚悟で委ねるんです。お金とられるかもしれないし、変なところに連れていかれるかもしれないし、晒されるかもしれない、そういうことを全部置いて信じるんだけど、そうなったとて自分の責任だと思ってやるから、<sup>⑥</sup>ちっちゃなちっちゃなおおごとなんです。【\*6】

あらかじめ断つておくと、彼女は基本的には明るく、好奇心旺盛なタイプだ。盲導犬と一緒に温泉旅行に行くこともあり、行先で道に迷つても、そこで人に助けてもらったりする出会いが楽しいと言う。快適だと人は孤独になる。むしろ適度な冒険が楽しいのだ、と彼女は言う。

そんな冒険好きの西島でさえ、街中で会った人に身を委ねるときには「だまされる覚悟をする」。視覚障害者の場合は、介助してもらうために、相手が自分の体に触れることが多い。この人は、もしかしたら自分を殺すかもしれない。殺すというところまで行かなくても、人影のないところに誘導して、金品を奪うかもしれない。こうしたリスクを意識しながら、それでも声をかけてくれた人を信頼して、物理的に体を委ねるしかない。それは最悪の場合には死をも意味するような不確実性がある「にもかかわらず」、生み出さなければならない信頼である。

そう、それはまさに「生み出さなければならぬ」信頼である。彼女は驚くほど注意深く周囲の人を観察する力を持っているが、それでも会ったばかりのその人の本心を知るのは不可能に近い。だから、人間性が分からぬその人のことを、まさに賭けのようには「えいやっ」と信頼するしかない。出かけるたびにそんな機会に何度もさらされることは、確かに「ちっちゃなちっちゃなおおご

と」である。

けれども西島は、そういう偶然出会った人の「無責任な優しさ」でこそ自分は生きているんだ、とずっと思ってきたと言う。もちろん、助けてくれることはものすごくありがたい。だがその人は自分に対し何かの責任を負っているわけではなく、関係は一瞬である。彼女は「死ぬかもしない」と思っているが、声をかけた人は、せいぜい数分か數十分、自分の時間を割くつもりで彼女に声をかけたはずだ。そこには⑦残酷なほど非対称な関係がある。でもそのような注6刹那的で浅い人間関係こそ、むしろ自分にとっては重要だ。彼女はそう思ってきたのである。

無責任な優しさで生きているんだって思っていたんです、ずっと。責任がないから優しくできるんだって。街で会って、声をかけてくれて、手を貸してくれる、でもそのあとその人が無事に家についたかとか、目的地についたかとか、知らないわけですよね。だから、ばったり遭遇したり優しくしてもらう機会は、回数でいえばすごく多いけど、フラットに人と関わって、好きだ嫌いだの、という人数はすごく少なくて、でも密に関わる人は多くて。この三つのなかで、私が生き残るうえで一番重要な人間関係はどれだって思ったときに、ばったり街であった人が一番、実際のところは、自分の生活を救ってくれているはずだと思うんです。自分のあぶないときに「あぶない！」と引っ張ってくれたりとかね。【\*7】

(伊藤亜紗「信頼の風土」『わたしの身体はままならない』より)

注3

【\*3】は和田行男『だいじょうぶ認知症—家族が笑顔で介護するための基礎知識』朝日新書、二〇一四年、一六七一六八頁からの伊藤亜紗による引用を示す。【\*4】【\*6】【\*7】は伊藤亜紗によるインタビューであることを示す。

注4 若年性アルツハイマー病：若年性認知症の一種。

注5 全盲：視力が全くないこと。

注6 刹那：極めて短い時間。

問一

傍線部①「相手を信頼して行動することで自分の『身』がまったく危険にさらされることがない」とあるが、借金を例にしたとき、傍線部①の状態に相当するものとして最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、相手に貸した金額よりも少ない金額の品が担保として差し出されたとき。

イ、相手に貸した金額よりも大きな金額の品が担保として差し出されたとき。

ウ、誠実さがない相手が何も担保にせずに自分に借金を申し込んできたとき。

エ、相手の品性や人柄が不明であるにもかかわらず、相手に金を貸したとき。

問二

傍線部②「その友人がどれほど信頼できる人間なのか」について、相手に対して信頼が期待できるのはどのような場合かを説明した次の文章の空欄 A □ → C □ に、指定された字数で【文章Ⅰ】から適当な表現を抜き出して答えなさい。

自分にとって、A (七字) が大きい状況で、相手の人格や相手の自分に対する B (四字) についての知識と、相手が自分を搾取しないことによって相手に C (二字) がもたらされるということが明らかな場合である。

問三

傍線部③「『針千本マシン』という架空の機械」について、次の問いに答えなさい。

(1) この「機械」が埋め込まれた相手は自分にとってどのような状態となるか。次の空欄にあてはまる最も適当な表現を、

【文章Ⅱ】の「中略」以前の部分から八字で抜き出して答えなさい。

・自分が相手を □ ことができる状態。

(2) 【文章Ⅱ】の「介護の現場」の事例によれば、この「機械」を埋め込まれた相手と自分とのあいだにはどのような状況が生じるのか。その説明として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、ケアする者にとっては、介助におけるリスクが軽減され、ケアされる者の生活上の安全性が確保される一方、ケアされる者の行動の意思が予測可能な範囲に留められてしまうという状況。

イ、ケアされる者の突然的な行動を前もって予測する必要性が生じるため、ケアする者が常に長時間ケアされる者に付き

添うことで、ケアする者の自由な意思を制限しなければならないという状況。

ウ、ケアする者の挑戦や失敗は許されることとなる一方で、ケアされる者の挑戦や失敗は許されないために、ケアする者からケアされる者への一時的な協力関係が重要視されるという状況。

エ、ケアされる者の行動により生じるリスクが最小化され、ケアされる者の生きづらさが減少するが、周囲の人々がケアされる者に対して責任のある振る舞いをしなければならないという状況。

#### 問四

傍線部④の空欄にあてはまる最も適当な語を、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、うお イ、あら ウ、とど エ、はた

問五 傍線部⑤「この『される側』から『する側』への信頼は、『する側』から『される側』への信頼とは、性質が異なっている」とあるが、この二つの性質はどのような点で異なるのか。その説明として最も適当なもの、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、ケアされる人はケアする人に対して、必ず自らの身体を保護してもらえるという安心感があるため、無条件に声をかけることができる一方で、ケアする人はケアされる人に対して、ケアされる人の身体能力が分からぬいため、信頼関係を結ぶしかないという点。

イ、ケアされる人はケアする人に対して、生活上のリスクを回避するために相手を信頼しないという選択肢をとることが難しい一方で、ケアする人はケアされる人に対して、ケアされる人の行動を制御することで信頼か安心のいずれかを選ぶことが可能であるという点。

ウ、ケアされる人がケアする人に信頼の関係を結ぼうとすることは、相手と長期的で深い人間関係を結ぶことが物理的に困難であるため現実的でない一方、ケアする人がケアされる人に信頼の関係を結ぶことは、ケアする人の失敗を克服しうる契機になるという点。

エ、ケアされる人はケアする人を信頼して助けを求めなければ、自分の安全を損なう可能性があるが、ケアする人はケアされる者の特性に応じて信頼と安心のどちらかを選択していくなければ、想定外の失敗や混乱がケアする人の身に生じかねないという点。

問六 傍線部⑥「ちっちゃなちっちゃなおおごと」とあるが、「X」どのような状況が、「Y」どのような理由で「おおごと」であるといえるのか。それぞれ適当なものを、ア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

〔X〕

ア、ケアされる人が盲導犬と一緒に街に出る状況。

イ、ケアされる人がケアする人に気軽に手を貸してもらう状況。

ウ、ケアされる人の身体が自由に動かせるようになる状況。

エ、ケアされる人がケアする人と数分間一緒にいる状況。

オ、ケアされる人がケアする人と安心して過ごせる状況。

〔Y〕

ア、ケアされる人がケアする人と深い関係を築けるから。

イ、ケアされる人がケアする人に身体を触れられてしまうから。

ウ、ケアされる人がケアする人に命を奪われる危険があるから。

エ、ケアされる人がケアする人に保護してもらえるから。

オ、ケアされる人がケアする人の介助の結果責任を背負うから。

問七 傍線部⑦「残酷なほど非対称な関係」とあるが、両者のどのような点を表現したものか。その説明として最も適当なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア、ケアする人はケアされる人がもたらすいかなるリスクも受け入れができるが、ケアされる人はケアする人がも

たらすリスクを受け入れることができない点。

イ、ケアする人はケアされた人の行く末を見ずに責任を果たしたと思い込むが、ケアされた人はケアする人の行為の結果

に対して責任を問うことができる点。

ウ、ケアする人はケアされる人に対して最後まで責任を負わないが、ケアされる人はケアする人に対して責任を負わなけ

ればならない点。

エ、ケアする人はケアされた人の行方を知ることなく一瞬しか関与しないが、ケアされた人はケアした人の行為の結果がどのようなものであっても受け入れることになる点。

#### 問八

**【文章Ⅰ】**二重傍線部「信頼と区別される別の概念として、『安心』の概念を用いることを提案してきました」とあるが、**【文章Ⅱ】**の内容を踏まえ、「信頼」の意義について、「安心」の概念を用いて人間関係をとらえることと比較しながら、七十字以内で説明しなさい。

**第三問題** 次の1～5の各文の傍線をつけたカタカナを漢字に直しなさい。

1、この服はシンシユク性のある素材が用いられている。

2、セキサイ量を超える荷物は運ばないよう心がけている。

3、いつか水上を気持ちよく走るハンセンに乗ってみたい。

4、ティボウに沿って、たくさんの見物客がながめていた。

5、あの家の玄関には美しいトウキの置物が飾られています。

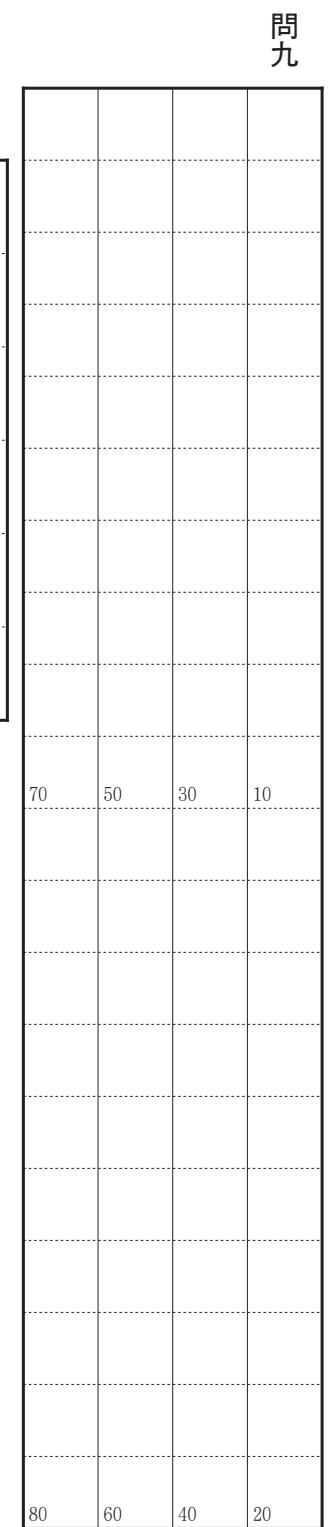
令和六年度 高等学校入学試験問題

解 答 欄

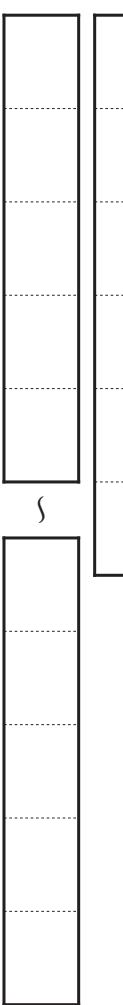
〔国語〕

第一問題

問一	<input type="text"/>
問二	<input type="text"/>
問三	<input type="text"/>
問四	<input type="text"/>
問五	<input type="text"/>
問六	<input type="text"/>
問七	<input type="text"/>
問八	<input type="text"/>



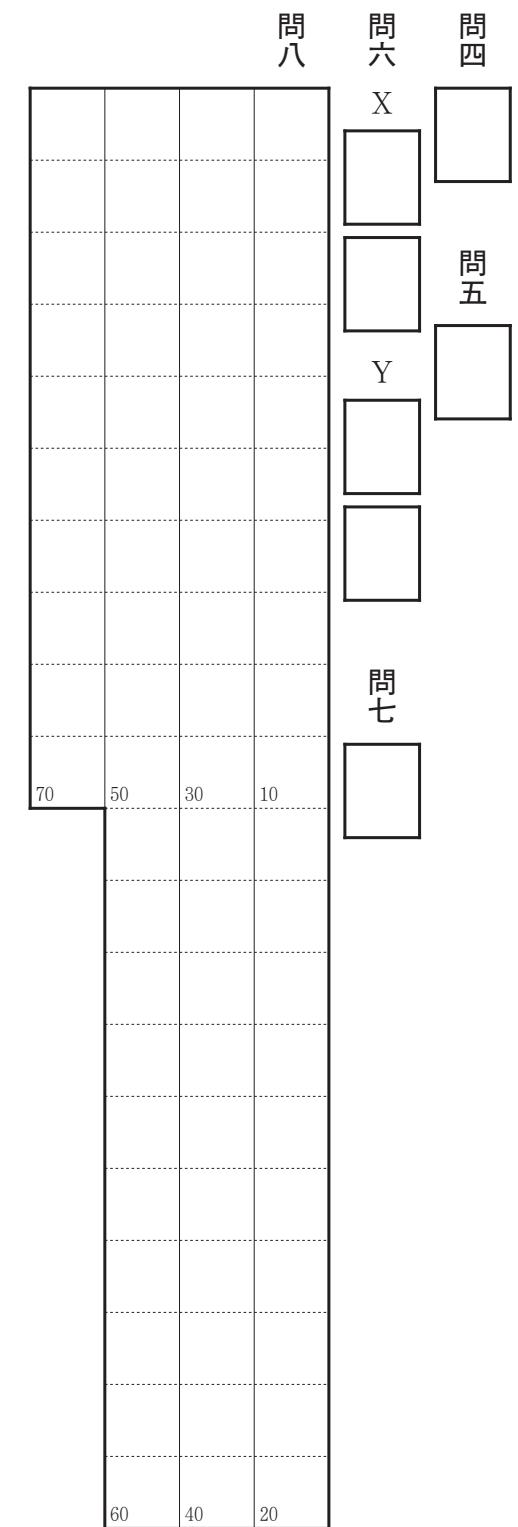
問十(1)



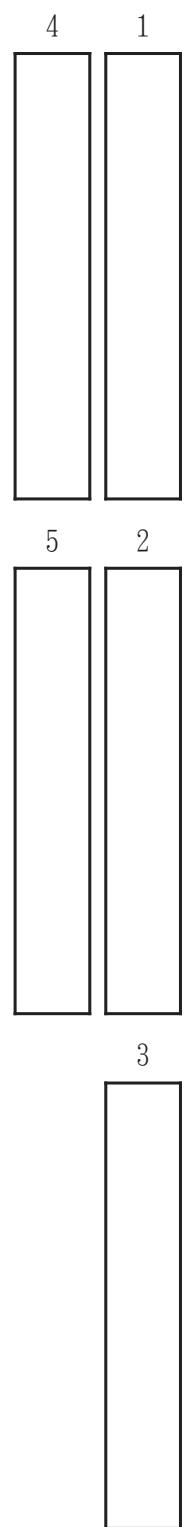
第二問題

問一	<input type="text"/>
問二	<input type="text"/>
問三(1)	<input type="text"/>
問三(2)	<input type="text"/>
問四	<input type="text"/>
問五	<input type="text"/>
問六	<input type="text"/>
問七	<input type="text"/>
問八	<input type="text"/>
問九	<input type="text"/>
問十(1)	<input type="text"/>
問十(2)	<input type="text"/>

第三問題



第三問題



4

1

5

2

3

受験番号	<input type="text"/>
名前	<input type="text"/>
得点	<input type="text"/>

※印欄は記入しないこと

国語